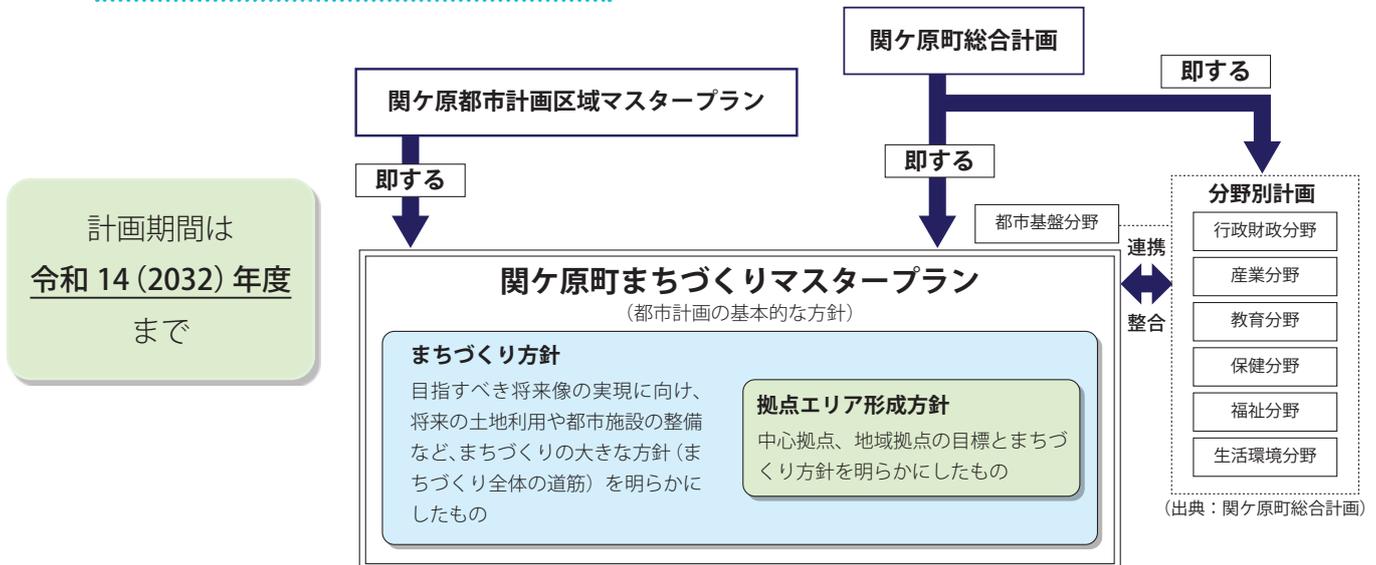


関ヶ原町まちづくりマスタープラン

— 関ヶ原町都市計画マスタープラン（都市計画の基本的な方針） —
（概要版）

まちづくりマスタープランとは

本町は町域の80%を山林が占め、残る20%の平坦地は、関ヶ原駅や国道沿線を中心に形成した市街地と、その周囲の農村集落などにより構成されています。その農村集落は、市街地から都市計画区域外まで連なって存在し、住民の生活が営まれ、道路や橋梁などの都市基盤を備えていることから、本計画においては、こうした都市計画区域外を含めた**本町の行政区域全域を対象区域**とし、法定の都市計画マスタープラン（本町の都市計画に関する基本的な方針）であると同時に、町域全域で、地域の活性化や安全安心なまちの実現に向けた「関ヶ原町におけるまちづくりの基本方針」の性格をあわせ持つ計画として、「**関ヶ原町まちづくりマスタープラン**」を策定します。



まちづくりの目標

■ まちの将来像

『笑顔あふれ 活気みなぎる 古戦場のまち せきがはら』



SDG s 持続可能な開発目標との関係性

【目標①】 生きがいを持って安心して暮らせるまち

【目標②】 地域資源の魅力を発信するまち

【目標③】 地域を誇り、共に担うまち

将来都市構造

■ゾーンの形成

市街地ゾーン ■ ■
住宅系土地利用 工業系土地利用
 都市機能を維持、誘導することを目指します。

集落地ゾーン ■ ■
集落等 農地等
 地域コミュニティの維持・活性化を目指します。

森林ゾーン ■
森林
 多面的公益的な機能を発揮できるように、森林環境を保全・管理することを目指します。

将来都市構造図



■拠点の形成

中心拠点

居住機能の誘導、さらに交通結節点の機能の強化を図ります。また、住民の生活の拠点として魅力を高め、暮らしやすい生活圏を構築します。

地域拠点

住民の生活の拠点として魅力を高め、暮らしやすい生活圏を構築します。また、骨格軸により中心拠点との連携を強化します。

産業拠点

新たな工業系の土地利用を検討し、工業・物流機能の集積・拡張を図ります。

歴史交流拠点

楽しさ・にぎわいを創出し、来訪者を魅了する空間づくりを推進します。

自然交流拠点

自然、文化、人々との交流を楽しむ体験・滞在型の余暇活動であるグリーン・ツーリズムを推進します。

■軸の形成

骨格軸

日常生活や観光交流など多様な人々が往来する都市の形成を目指します。

広域連携軸

広域的な交通を円滑に処理するとともに、利便性を向上させ、にぎわいや活力ある都市の形成を目指します。

地域連携軸

日常生活を支える基盤として機能を維持し、地域の連携を図る都市の形成を目指します。

公共交通軸

各拠点へのアクセシビリティを強化するとともに、自家用車に頼らない住民の日常の生活利便性の確保に努めます。

まちづくりの方針

■土地利用の方針

市街地ゾーン

住宅系土地利用

- 都市機能の誘導と一体となった新たな居住の誘導
- 基盤整備が十分でない既成市街地の改善
- 賑わいと調和した住宅地の形成

商業系土地利用

- 鉄道駅周辺における機能集積の促進
- 幹線道路沿道における商業集積の維持・強化

工業系土地利用

- 既存の工業地域の操業環境の維持
- 新たな工業集積により機能強化

公共用地土地利用

- 資源を活かしたにぎわい創出の促進

集落地ゾーン

- 農村集落における生活基盤の維持
- 優良な農地の保全と有効活用の促進

森林ゾーン

- 豊かな森林環境の保全
- 自然共生型の土地利用の推進

■都市施設整備の方針

道路

生活道路

- 道路整備計画の策定などによる交通環境の維持

歩行者・自転車道路

- 歩道の拡幅整備や段差解消などのバリアフリー化
- 自転車利用促進に向けた取組み

など

公共交通

鉄道

- 交通結節点としての鉄道駅の利便性向上と機能強化

バス・タクシーなど

- バス・タクシーの利便性向上
- 新たなモビリティサービスの実現

歩行者・自転車ネットワーク

- 誰もが安全で快適に移動できる空間の確保

公園・緑地など

- 魅力ある公園の確保
- 既存ストックの有効活用
- まちなかの緑の保全

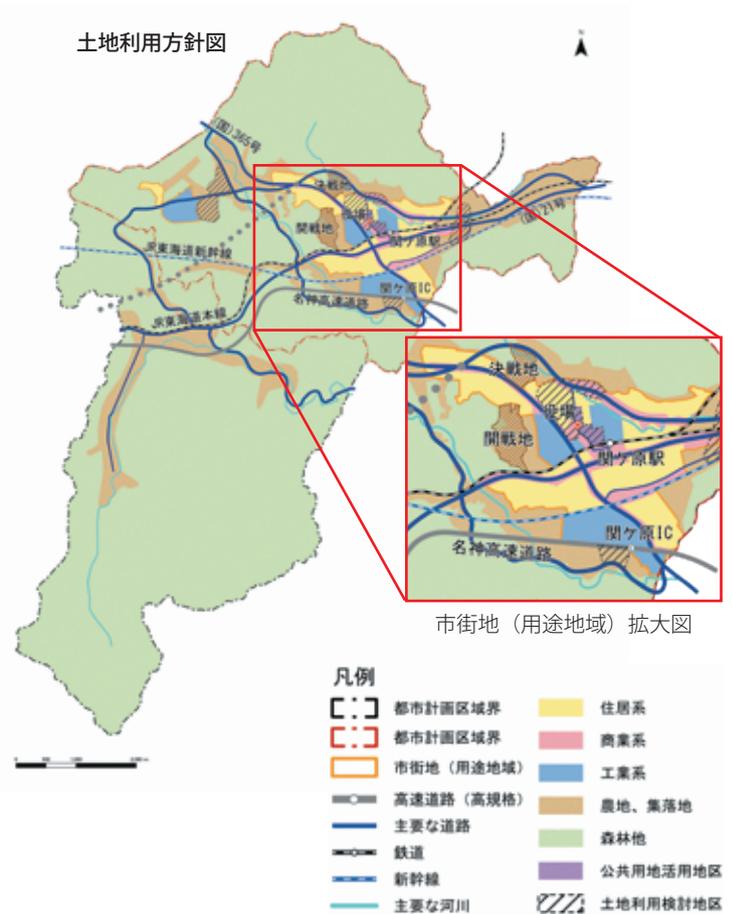
河川・上下水道

河川

- 豊かな河川環境の創出
- 河川の整備・保全

上下水道

- 下水道の普及率の向上や維持管理、更新
- 上水道の安定的な供給



■都市環境の方針

防災

- 災害を防止する開発抑制など
- 防災機能向上に向けた幹線道路網体系の構築
- 空家対策などによる市街地の安全性の確保
- 治山・治水対策の推進
- 地域による防災・防犯体制の強化
- 復興まちづくりの事前準備

景観

- 本町の歴史的景観の形成・保全
- 自然や暮らしを守る景観の形成・保全
- 周辺環境と調和した景観を保全するための規制・誘導

拠点エリア形成方針

中心拠点・歴史交流拠点（関ヶ原駅周辺エリア）

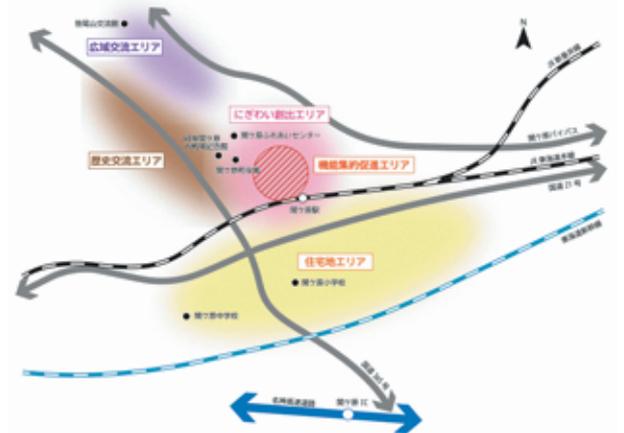
■基本方針

- 魅力ある施設を維持するとともに、生活が便利で豊かになるための機能を確保します。
- 全国的な知名度を誇る“関ヶ原”の歴史や豊かな自然資源と広域的な交通利便性を活かしてより多くの来訪者を集めます。
- 住民が安全、安心に暮らせる市街地環境に更新していきます。

■主な取組方針

- 町の玄関口である関ヶ原駅北側の低未利用地の有効活用
- 施設立地のための用途地域の変更
- 空家・空き地の活用促進
- 国道21号バイパスのポテンシャルを活かした交流施設の誘導

まちづくり構想イメージ



地域拠点（今須エリア）

■基本方針

- “今須”の地域資源を活かした地域住民の活動拠点づくりを促進します。

■主な取組方針

- 地域住民などとの連携による旧校舎活用の検討
- 地域の防災力向上
- 地域の交通結節点としての整備を推進

まちづくり構想イメージ



まちづくりの推進に向けた4つの方針

①計画に基づいたまちづくりの推進

まちづくりの目標や将来都市構造の実現に向け、国、県などと連携、協力を強化しながら、計画に基づいたまちづくりを推進します。

②地域住民によるまちづくり活動の推進

住民参加の促進やまちづくりを担う人材の掘り起こし、育成、コミュニティやNPOなどと連携しながら、協働によるまちづくりを推進します。

③まちづくりに関する情報共有

住民や民間事業者が本計画に定める内容を共通認識としてまちづくりに取り組むため、広報やホームページなどを活用したまちづくりに関する情報共有に努めます。

④まちづくりマスタープランの柔軟な見直し

社会経済情勢の変化や新たなまちづくりに対する取組みなどに対応して、上位・関連計画とも整合を図りながら、適宜適切な見直しを検討します。